



◆生育状況について

結実は、ふじを除いて平年並みとなっている。樹や枝によりバラツキも見られる。自園の結実状況を確認する。

◆当面する重点作業について

1. あら摘果が終了していない場合は、早急に終了させる。また、仕上げ摘果は、果形・肥大等を見ながら進める。
2. 果実肥大に伴い枝が下がってくるため、光条件改善、枝折れしないよう、支柱立てを実施する。
3. 梅雨時期は、炭そ病・輪紋病・褐斑病の重要な防除時期となる。薬剤散布を適期に行い、病害虫防除に努める。
4. 腐らん病の早期発見、早期治療に努める。
5. スモモヒメシンクイ対策として、薬剤防除・耕種的防除の徹底を図り、発生量の削減を図る。
6. リンゴワタムシ（メンチュウ）発生が見られる部位は、背面の徒長枝、根元のヒコバエを整理し風通しを良くする。
7. ヒメボクトウ対策の性フェロモン剤「ボクトウコンーH」を適期に設置する。
※詳細は、果樹総合情報No.3参照。
8. 計画的に雑草管理（ハダニ密度低下）を実施する。

◆仕上摘果について

果実肥大促進を促し、品質を見極めながら、実施する。

1. 時期：6月中下旬頃まで（満開60日以内）
2. 方法：
 - 1) 早生品種より実施し、着果量が少ない場合は、仕上摘果を遅らせ、品質を確認しながら進める。
 - 2) 最終着果量を確保に重点を置き、不足する場合は、品質より量を重視する。
3. 頂芽数と葉枚数（6月下旬）から見た着果の目安

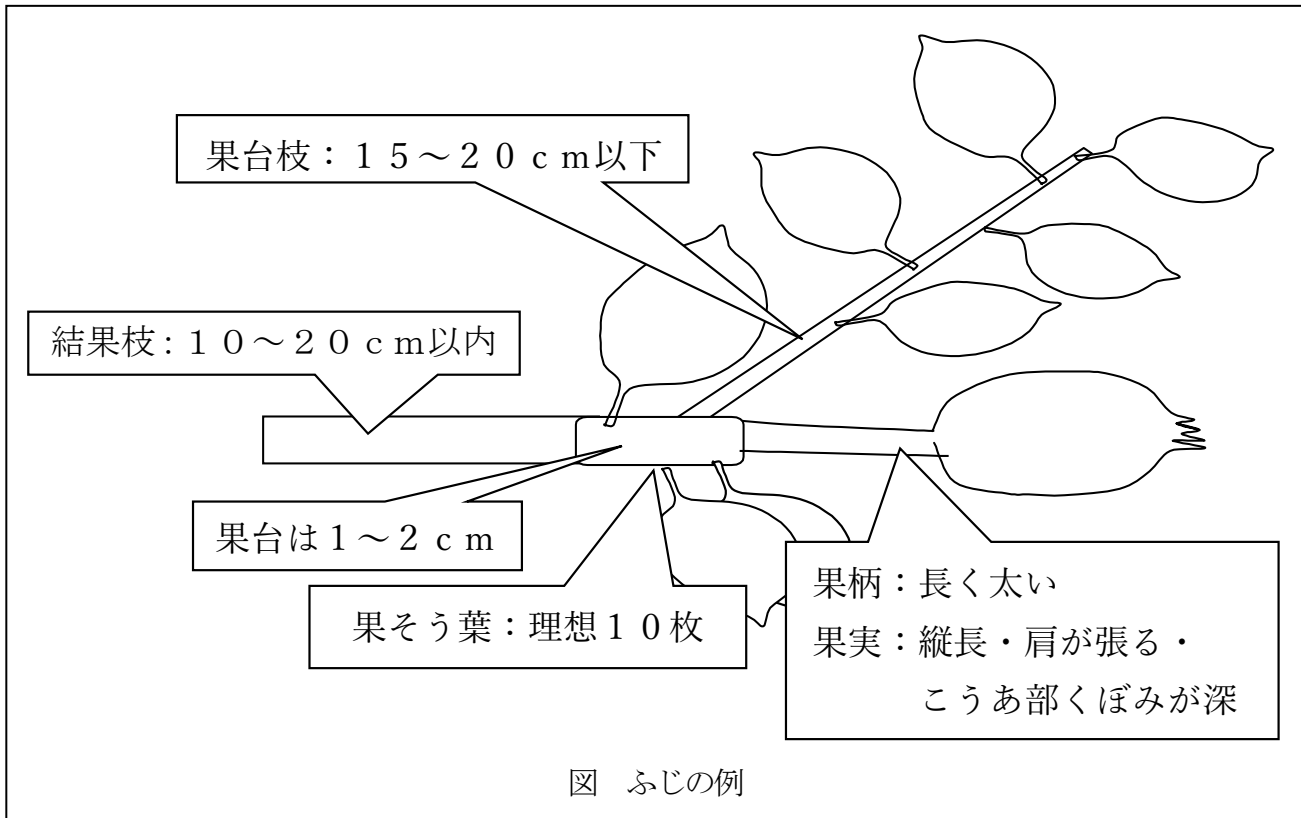
品種	必要葉枚数	頂芽基準
つがる・王林・紅玉・祝	45～60枚	3～4に1果
シナノドルチェ・秋映・シナノスイート シナノゴールド・ふじ	60～75枚	4～5頂芽に1果

4. 着果位置
 - 1) 骨格枝や伸ばしたい枝の先端部には着果させない。
 - 2) 落ち着いた枝（果台を何回も通った）で20cm以内の細い結果枝に着果させ「青味果」の発生を抑える。
 - 3) 日焼け果・裂果につながるものは摘果する。
今後本格的に気温上昇していくと、日射による果実の日焼け発生が増加する。着果位置で日焼け程度が変化してくるため、仕上摘果の際は日焼けも意識して着果させる。
①果実が枝に近く、斜めに着果し固定されている。枝の上に着果している。果実がまっすぐ垂れず、傾きが強く、果実側面が上向きになればなるほど日焼けする。
いずれも、果実が傾き、陽光面が広くなり、風などによる果実の動きが無く、日焼けしやすい。
⇒日焼け温度になりにくい、まっすぐに垂れている果実を残す。

②南～西側面の果実は、特に日射が強い日中よく日に当たるため、日焼けしやすい。

⇒果実全面が常に日光に当たる位置でなく、葉陰などを意識して残す。

4)すれ果にならない位置に着果



◆第7回薬剤散布について

1. 散布時期：6月10日（水）～14日（日）

実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10mℓ	—	—
ダントツ水溶剤	2,000倍	50g	前日	リンゴワタムシ・シンクイムシ類
ペンコゼブ水和剤	500倍	200g	30日	輪紋病・炭そ病・すず斑病・すず点病・黒星病・斑点落葉病・褐斑病

3. 散布上の留意事項

- 1) 降雨が多い場合は展着剤に代えて、固着性展着剤アビオンE1,500倍（水100ℓに66mℓ）を使用してもよい。
- 2) ダントツ水溶剤に代えて、スミチオン水和剤40の1,000倍（水100ℓ当り100g）を使用してもよい。
- 3) ナシマルカイガラムシ発生園は、トランスフォームフロアブル2,000倍（水100ℓ当り50mℓ）又はコルト顆粒水和剤3,000倍（水100ℓ当り33g）を加用散布する。

◆シンクイムシ類対策特別薬剤散布について

1. 散布時期：第7回薬剤散布7日後頃

実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10mℓ	—	—
ディアナWDG	5,000倍	20g	前日	シンクイムシ類

3. 散布上の留意事項

- 1) シンクイムシ類多発の心配な場合は、実施する。
- 2) ディアナWDGに代えて、㊸サイハロン水和剤2,000倍（水100ℓ当り50g）を使用してもよい。

◆品質向上・カルシウム欠乏対策について

品質向上やビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記葉面散布肥料を散布する。

1. 使用時期：第7回薬剤散布に混用使用（単用使用してもよい）
2. 使用資材：調合量1000当り

【品質向上対策】※下記より、いずれかを選択。

資材名	使用倍率	調合量
オルガミン	1,000倍	100ml
ケルパック66	5,000倍	20g
友果	500～1,000倍	200～100g



【カルシウム欠乏対策】※下記より、いずれかを選択。

資材名	使用倍率	調合量
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
ストピットII	500倍	200g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

◆苦土欠乏対策について

近年、苦土欠乏による黄変落葉が7月頃に発生することが多くなってきた。軽減対策として、下記を参考に対策を実施する。

1. 使用時期：単用使用で月2～3回散布
（薬剤散布に混用する場合は、混用数が多くなるように注意する。）
2. 使用資材：調合量1000当り
※下記より、いずれかを選択。

資材名	使用倍率	調合量
リーフマグ	1,000倍	100g
グリーントップ	500倍	200g